

科目名	からだのしくみ I (後期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度	目標		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について学び、関連した疾患の概要を説明することができる。		
	○				代表的な疾患や症状を知ったうえで、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
	○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○		利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11 - こころとからだのしくみ ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	からだのしくみを理解するー前期振り返り、関連する役割、薬の知識			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	生活習慣病について			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	移動に関連したところとからだのしくみ①移動の意義・目的、基本姿勢			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	移動に関連したところとからだのしくみ②ところとからだのしくみ			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	移動に関連したところとからだのしくみ③心身の機能低下が移動に及ぼす影響			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	移動に関連したところとからだのしくみ④変化の気づきと対応			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	身じたくに関連したところとからだのしくみ①身じたくの意義・目的			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	身じたくに関連したところとからだのしくみ②ところとからだのしくみ			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	身じたくに関連したところとからだのしくみ③心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	身じたくに関連したところとからだのしくみ④変化の気づきと対応			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	食事に関連したところとからだのしくみ①食事の意義・目的			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	食事に関連したところとからだのしくみ②ところとからだのしくみ			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	食事に関連したところとからだのしくみ③心身の機能低下が食事に及ぼす影響			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	食事に関連したところとからだのしくみ④変化の気づきと対応			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	学習のまとめと国家試験対策			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1)前期30時間(15コマ)終了時に前期定期試験を実施し、後期30時間(15コマ)終了時の後期定期試験での総合評価を通年の評価とする。 (2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)定期試験(筆記)を前後期に実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				5%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
発表・作品	○	○		◎		10%	
履修上の注意	出席が通年で20回に満たない場合は、後期定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ヒューマンサービス							
科目名(英)	Human service							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	前田秀敏	
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科 1年生							
授業概要	1, 自分を知り他人を知ることができる(ワークシート) 2, 他人とのコミュニケーションが取れるようになる(グループワーク) 3, チーム活動の在り方を学び、合意形成のプロセスを身に着ける。(グループディスカッション) 4, 目的に向かって協力することの意味や意義、達成感を身に付ける。(施設実習にむけて役割毎の企画及び実習)							
授業形式	講義: △		演習: ○	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○		○		自分を内観する、友人の言葉や態度で他人を知る。		
	○			○		友人と言葉を交わす、考えを言葉にして伝える、言葉の意味を考え相手を知る。		
			○	○		チームで協力して作業をする・議論をする・その中で合意形成をする意味と意義を知る		
			○			施設実習に向けてグループで企画を考える、チームで協力し達成感を味わう。		
テキスト・教材 参考図書	1, グループワークトレーニング(坂野公信・レクリエーション協会) 2, 人間開発の旅(坂野公信・遊技社) 3, リーダーのGWT(坂野公信・遊技社)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	心と解放Ⅰ(ゲームを心から楽しむ・ゲームのねらいを知る)				【レポート提出】授業の中で、気づいたことや分かったことをレポートにして提出する		
	2	心と解放Ⅱプログラムの組み立て方(ゲームの組み立て方を知る)				授業の中で、気づいたことや分かったことをメモしておく		
	3	自分を知り他人を知るⅠ(自分の長所と短所を知る)				授業の中で、気づいたことや分かったことをメモしておく		
	4	自分を知り他人を知るⅡ(他人に語ることを受け入れることを知る)				【レポート提出】授業の中で、気づいたことや分かったことをレポートにして提出する		
	5	コミュニケーション技法Ⅰ(言葉のないコミュニケーション)				授業の中で、気づいたことや分かったことをメモしておく		
	6	コミュニケーション技法Ⅱ(自分を表現する、他人の表現を受け入れる)				【レポート提出】授業の中で、気づいたことや分かったことをレポートにして提出する		
	7	価値の序列Ⅰ(地位・お金・健康・ボランティア等自分の価値を問いかける)				授業の中で、気づいたことや分かったことをメモしておく		
	8	価値の序列Ⅱ(他人の価値観と自分の価値観の違いを理解する)				【レポート提出】授業の中で、気づいたことや分かったことをレポートにして提出する		
	9	施設実習準備 1, 対象を知る 長生園打ち合わせ報告・プログラム作り				仲間と準備や話し合いをした内容をメモしておく		
	10	2, 企画書づくり(企画・広報・製作・設営に分かれて準備をする)				仲間と準備や話し合いをした内容をメモしておく		
	11	3, 製作・広報準備・リハーサル				仲間と準備や話し合いをした内容をメモしておく		
	12	4, プログラム演出・修正				仲間と準備や話し合いをした内容をメモしておく		
	13	5, 長生園実習(施設の利用者様に対しプログラム提供をする)				施設実習時お客様との会話内容と反応、気づいた事などをメモしておく		
	14	長生園実習				【レポート提出】実習の中で、気づいたことや分かったことをレポートにして提出する		
15	6, 振り返り・レポート作成(小テスト)							
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(実習)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験							
	小テスト	◎					40%	
	宿題・レポート	◎			○		30%	
	発表・作品(施設実習準備)		○	○			20%	
	発表・作品(施設実習)				○		10%	
履修上の注意								

科目名		レクリエーション(後期)					
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	波多江磨里子		
実施年度	2019年	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	人間が「人間らしく、自分らしく、生きていきたい」と願い、追及をしていくその”援助者”としての役割を持つ介護福祉士。被援助者の「願い」の実現のための保健や体育、レクリエーションの知識を学び、利用者に適切に提供することができるよう評価―計画―実施―再評価の方法や活動分析について知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	○					保健やレクリエーションが特定の入や時間に限定されるのではなく、人権、権利であることを知る。	
		○				利用者によって異なる心や体の課題を理解し、利用者個々人に利用者分析を行うことができる。	
				○		利用者へのアセスメント(評価)をもとに利用者の課題解決に向けた援助行動ができる。	
				○		利用者の方々に対し「集団も個のあつまり」であることを理解し、生活の快を追及するための集団援助ができる。	
	○				身の回りにおける保健体育・レクリエーションのための社会資源を10以上挙げるができる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	レクリエーション支援の方法Ⅰ-1 信頼関係づくりの方法			テキスト該当範囲を読んでおく		
	2	レクリエーション支援の方法Ⅰ-2 ホスピタリティ			テキスト該当範囲を読んでおく		
	3	レクリエーション支援の方法Ⅱ-1 アイスブレイキング			テキスト該当範囲を読んでおく		
	4	レクリエーション支援の方法Ⅱ-2 良好な集団づくりの方法			テキスト該当範囲を読んでおく		
	5	レクリエーション支援の方法Ⅲ-1 自主的・主体的に楽しむ力を高める			テキスト該当範囲を読んでおく		
	6	レクリエーション支援の方法Ⅲ-2 楽しむ力を高める目標設定の方法			テキスト該当範囲を読んでおく		
	7	レクリエーション支援の方法Ⅲ-3 レク活動を対象に合わせるアレンジ			テキスト該当範囲を読んでおく 活動分析について考察する		
	8	レクリエーション支援の方法Ⅲ-4 相互作用を促進するコミュニケーション技術			テキスト該当範囲を読んでおく 良好なコミュニケーションに必要な言葉の言い換えを		
	9	レクリエーション活動の習得 個人援助			今まで学んだレクリエーション援助技術過程を復習しておく		
	10	レクリエーション活動の習得 集団を介しての援助			アイスブレイキングのプログラミングの復習をしておく		
	11	レクリエーション活動の習得 支援のための歌			高齢者、子どもと一緒に歌うことのできる歌を探しておく		
	12	レクリエーション活動の習得 音楽に合わせた身体活動			歌に合わせた動きを4つ考えておく		
	13	レクリエーション活動の習得 機能回復などを目的とする集団活動			学んだことを自分なりにまとめておく		
	14	レクリエーション活動の習得 卓上療法・脳トレ活動			学んだことを自分なりにまとめておく (時間、言葉かけ、立ち位置にも留意する)		
	15	レクリエーション支援の実施			60分のレクリエーションプログラムを準備しておく 客観的に振り返りを作成する		
	16	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	17	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	18	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	19	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
	20	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する		
評価方法	(1)授業中のグループワークへの参加状況 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				
	小テスト	◎	◎				
	宿題・レポート	○	○		◎		
	発表・作品			○	◎		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程総論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期／半期科目	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	①介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる。 ②他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開することができる。 ③介護計画の立案により、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護過程の意義、目的を理解する。	
	○					介護過程の展開を理解する。	
	○	△				個々に合った介護過程を展開できるようになる。	
	○					チームアプローチの重要性を認識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護過程」 中央法規「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護過程とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護過程とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	生活支援における介護過程の必要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	生活支援における介護過程の必要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	介護過程の展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	アセスメント(情報収集)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	介護過程の立案				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	介護の実施				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	評価				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	介護過程の実践的展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	「介護過程」展開の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	介護過程とケアマネジメントの関係性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	チームアプローチにおける介護福祉士の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ、試験対策				定期試験に向け、復習しておくこと		
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護実習 I B							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	80時間		担当者	吉水 美穂	
実施年度	2019		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科 1年生							
授業概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一委員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする							
授業形式	講義:		演習:	実習:	○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他			目標
			○					コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる
			○	○				利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる
		○	○					学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。
		○		○				多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる
			○				計画的に実習の課題に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録							
授業計画	日数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る					日々の実習記録の記載	
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する					日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる					日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する					日々の実習記録の記載	
	5	1週間の学びや職員への質問を通して施設の概要を理解する					日々の実習記録の記載・プロセスレコードの記載	
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する					日々の実習記録の記載	
	7	利用者とのコミュニケーションから情報収集を行う					日々の実習記録の記載	
	8	他専門職から得られる情報を収集し情報シートを仕上げる					日々の実習記録の記載	
	9	印象に残った関りをプロセスレコードに記載					日々の実習記録の記載	
	10	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う					日々の実習記録の記載・カンファレンスレポート提出	
	11							
	12							
	13							
	14							
15								
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験							
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
	実習態度		○	○	○		50	
	記録提出		○	○	○		50	
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。							

科目名	介護総合演習 I (後期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	通年	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	授業の中で介護過程の展開方法を理解したうえで、実習事例体験を通して、個々に合った介護過程の展開ができるようになる。さらに、実習後個別のケースに対して事例研究を行い、事例検討の方法を習得する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			実技試験に4回目までに合格できる	
				○		すべてに出席できる	
	○	○				実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる	
				○		授業態度	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	実習先発表、自己紹介表記入					
	17	調べ学習					
	18	目標設定					
	19	日誌下書き					
	20	日誌清書					
	21	実習内容					
	22	実習の決まりごと確認					
	23	プロセスレコード、カンファレンスレポート記入方法					
	24	実習前審査リハーサル					
	25	事前挨拶／実習前審査					
	26	事前挨拶／実習前審査					
	27	お礼状／申し送り簿記入					
	28	報告会準備					
29	実習報告会						
30	実習報告会						
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席していること 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	○		○	○		100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価対象外とする						

科目名	介護福祉各論Ⅰ(後期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	通年	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護福祉を必要とする人の背景を理解し利用者へ何ができるかイメージできる。	
	○	○		○		障害者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		高齢者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		地域の社会資源について説明できる	
○	○		○		介護福祉士の役割についてイメージできる		
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護の基本Ⅱ」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	障害者のためのフォーマルサービス					
	17	障害者のためのフォーマルサービス					
	18	費用負担による区分					
	19	費用負担による区分					
	20	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係					
	21	インフォーマルサービスの種類と提供者					
	22	生活を支えるインフォーマルサービスとは					
	23	生活を支えるインフォーマルサービスとは					
	24	地域連携の意義と目的。機関の理解					
	25	地域連携の意義と目的。機関の理解					
	26	利用者を取り巻く地域連携の実際					
	27	利用者を取り巻く地域連携の実際					
	28	事例検討 利用者が地域で過ごすために					
29	事例検討 利用者が地域で過ごすために						
30	試験対策						
評価方法	(1)授業中のグループワークへの参加状況 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	グループワーク			○	○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護概論・介護福祉総論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 介護福祉科						
授業概要	介護福祉の専門性と倫理を理解する。ICFの視点にもとづくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法について理解し、習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士の倫理綱領を理解する。	
	○					自立支援とは何かを理解し、ICFの考え方を理解する。	
		○				自立支援とリハビリテーションについて理解する。	
		○				自立支援と介護予防について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 一介護の基本 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護福祉士の倫理 介護実践における倫理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	自立支援の考え方 自立支援とは？				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	自立支援の考え方 自立支援とは？				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	ICFの考え方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	介護におけるICFのとらえ方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	自立支援とリハビリテーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	リハビリテーションとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	自立支援と介護予防				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	介護予防の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	高齢者の身体特性と介護予防				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	介護予防における介護福祉士の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	15時間	担当者	伊東良輔		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	社会福祉に関する法律や制度について、歴史的変遷を知り成り立ちを理解することで、介護福祉士としての素地を固める						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					法律・制度の歴史的背景を理解し説明することができる	
		○				理解した情報を基に介護福祉士として適切な行動をすることができる	
				○		歴史的変遷を知ることで介護福祉士の地位向上に資する言動ができる	
テキスト・教材 参考図書	新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解 第5版 中央法規出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護保険制度における専門職の役割			前期までの学習内容を復習しておくこと		
	2	介護保険制度にかかわる組織とその役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	介護保険制度のゆくえ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	障害者の自立			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	障害者自立支援制度創設の目的と動向			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	障害者自立支援制度のしくみ(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	障害者自立支援制度のしくみ(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	障害者自立支援制度にかかわる組織と役割(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	障害者自立支援制度にかかわる組織と役割(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	障害者福祉施策のゆくえ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	人々の人権を擁護する制度(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	人々の人権を擁護する制度(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	保健医療にかかわる諸施策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	医療にかかわる法と諸施策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	後期授業のまとめ			後期授業の内容を振り返っておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業態度・参加意欲 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	授業態度				◎		10%
	参加意欲				◎		5%
	貢献度				◎		5%
履修上の注意	出席が2/3以上満たない場合は評価対象外とする						

科目名	就職実務						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	15時間	担当者	吉水美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感もてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	3	就職活動指導③(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	4	就職活動指導④(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	5	就職活動指導⑤(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	6	就職活動指導⑥(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	7	就職活動指導⑦(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	8	就職活動指導⑧(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	欠席が6回以上となる場合は、単位未取得となる						

科目名	障害の理解(後期)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田中優子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年 ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を理解する	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について理解する	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について理解する	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて理解する	
			○			障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	知的障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	17	知的障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ ② DVD				教科書の当該範囲を読んでおく	
	18	精神障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	19	高次脳機能障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	20	発達障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	21	難病の定義を理解しその特性に合った支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	22	難病の定義を理解しその特性に合った支援の在り方を学ぶ DVD				教科書の当該範囲を読んでおく	
	23	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること	
	24	障害を持った人との関わり ①				教科書の当該範囲を読んでおく	
	25	障害を持った人との関わり ②				教科書の当該範囲を読んでおく	
	26	地域のサポート体制と社会資源の考え方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
	27	チームアプローチの在り方、保健医療関係者の職種を理解する				教科書の当該範囲を読んでおく	
	28	家族への支援の在り方について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく	
29	家族への支援の在り方について学ぶ ② 事例検討				教科書の当該範囲を読んでおく		
30	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること		
評価方法	(1)前期30時間(15コマ)終了時に前期定期試験を実施し、後期30時間(15コマ)終了時の後期定期試験との総合評価を通年の評価とする。 (2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)定期試験(筆記)を前後期に実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				5%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品	○	○		◎		10%
履修上の注意	出席が通年で20回に満たない場合は、後期定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・応用 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山・案納・豆田		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識、技術を学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○	○	○	○		各単元の生活支援技術を安全安楽に行うことができる。	
		○	○	○		実施した生活支援技術の根拠を伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 8. 生活支援技術 I 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視覚障害(平山)					
	2	視覚障害(平山)					
	3	視覚障害(平山)					
	4	聴覚・言語障害(平山)					
	5	聴覚・言語障害(平山)					
	6	聴覚・言語障害(平山)					
	7	重複障害(平山)					
	8	重複障害(平山)					
	9	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	10	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	11	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	12	膀胱・直腸機能障害(案納)					
	13	高次脳機能障害(豆田)					
	14	高次脳機能障害(豆田)					
15	高次脳機能障害(豆田)						
評価方法	期末試験を実施する。 出席回数。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	生活支援技術・基本 I (後期)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	豆田・案納・吉水・平山		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	31	入浴・清潔保持(吉水)					
	32	入浴・清潔保持(吉水)					
	33	入浴・清潔保持(吉水)					
	34	入浴・清潔保持(吉水)					
	35	入浴・清潔保持(吉水)					
	36	入浴・清潔保持(吉水)					
	37	入浴・清潔保持(吉水)					
	38	入浴・清潔保持(吉水)					
	39	入浴・清潔保持(吉水)					
	40	入浴・清潔保持(吉水)					
	41	口腔ケア(平山)					
	42	口腔ケア(平山)					
	43	口腔ケア(平山)					
	44	口腔ケア(平山)					
45	演習・口腔ケア(平山)						
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	認知症の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		認知症の定義・全体像について理解し説明できる	
	○	○		○		認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる	
	○	○		○		認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる	
	○	○		○		認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる	
○	○		○		認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べるができる		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 前期内容の振り返り			小テスト(前期の内容)を実施するので勉強しておくこと		
	2	認知症を取り巻く状況			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	3	認知症ケアの理念と視点・認知症当事者の視点から考える			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	4	認知症ケアの実際① パーソンセンタードケア			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	5	認知症ケアの実際② アセスメントの方法の実際			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	6	認知症の人への様々なアプローチ①			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	7	認知症の人への様々なアプローチ②			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	8	認知症の人の終末期医療と介護			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	9	認知症の人の生活環境			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	10	介護者支援 家族の支援			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	11	認知症の人の地域生活支援 新オレンジプラン			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	12	認知症の人の地域生活支援 RUN伴事前オリエンテーション			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	13	認知症の人の地域生活支援 RUN伴参加			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	14	認知症の人の地域生活支援 RUN伴参加			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
15	認知症ケアの実際のまとめ			後期まとめテストを実施するので勉強しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	発達と老化の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	15時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。この授業では、介護を必要とする人の理解を深めるため人間の成長と発達の基礎的理解を学び、発達と老化の観点から老化の心理や身体的変化変化、特徴の基礎的な知識を身につけ、人生のあらゆる段階、特に高齢者の生活支援するための知識を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					成長・発達の考え方、原則、影響する要因、発達段階と発達課題の基礎知識を習得できる。	
	○					成長・発達の観点から、老化にともなう心理や身体的機能の変化及び特徴に関する基礎的な知識を習得できる。	
	○					老化にともなう身体的・心理的・社会的変化とそれらがどのように生活に影響を与えるかを理解できる。	
	○					高齢者の疾病と生活への影響、健康の維持・増進、性格を支援するための基礎的な知識を習得できる。	
	○					習得した知識であらゆる段階、特に老年期にある人を理解し、尊厳の保持などを踏まえ生活支援ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 介護福祉士養成講座12-発達と老化の理解</li> <li>中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	老化にともなうところからの変化と生活—心理的な変化と生活への影響 認知・知覚・機能の変化と心理的影響パーソナリティの変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	老化にともなうところからの変化と生活—心理的な変化と生活への影響 老化と動機づけ・適応				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	老化にともなうところからの変化と生活—社会的な変化と生活への影響 社会の生活上の課題 高齢者の社会的活動の現状と課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	高齢者と健康 健康長寿の健康 高齢者の症状・疾患の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 骨格系・筋系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 脳・神経系 皮膚・感覚器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 循環器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 呼吸器系 消化器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 腎・泌尿器系 内分泌・代謝系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 歯・口腔疾患 悪性新生物				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 感染症 精神疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 その他 熱中症・脱水・・・				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 保健医療職との連携				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	後期授業のふり返り				授業時配布プリントの生理をしておくこと	
15	後期定期試験対策 国試過去問 模擬問題等				授業時配布プリントの生理をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プリント生理の確認を実施する。(3)グループワーク・発表を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	プリント確認	○			◎		10%
	宿題・レポート	○	○		○		5%
	発表	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	現代社会と福祉Ⅱ							
科目名(英)	Contemporary society and the welfare							
単位数	2単位	時間数	15時間	担当者	伊東良輔			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	福祉心理学科1年							
授業概要	社会福祉の原理や概念、我が国の福祉の歴史を学び、現代社会の福祉政策に関して広い視点を持つことができるソーシャルワーカーの素地となる知識を獲得する。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					対入援助の根拠となる理論と変遷について学び、ソーシャルワークの概要を説明することができる。		
		○				授業で獲得した知識を実践場面でどのように活用できるか説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	福祉政策の論点Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	福祉政策の論点Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	福祉政策の論点Ⅲ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	福祉政策における政府の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	福祉政策における市場の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	福祉政策における国民の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	福祉供給部門				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	福祉供給過程				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	福祉利用過程				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	福祉政策と教育政策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	福祉政策と住宅政策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	福祉政策と労働政策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	相談援助活動と福祉政策の関係				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ				後期授業内容を各自まとめておくこと			
評価方法	出席状況、授業への参加意欲、定期試験(筆記)を実施する。 下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				80%	
	参加意欲	○			◎		20%	
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							